



長蛇の列ができたカキ焼きうどんの無料試食(写真右)／カキ積み大会に挑戦する子供たち(写真左)



山田てんこ盛りフェスタ2004

山田 かきまつり

9,000人が海のミルクを堪能

3月20日、「山田カキまつり」が大沢漁協前で開かれました。山田町商工会が中心となって組織する山田の魅力発信実行委員会（阿部幸栄会長）が、通年事業の「山田てんこ盛りフェスタ2004」の一環として開催したもので、会場は9,000人の家族連れなどでにぎわいました。会場には殻付きカキや特産品が市価より30～40%ほど安く並び、訪れた人たちはまとめて買い求めています。カキ汁、焼きガキ、ジャンボ鉄板で作るカキ焼きうどんの試食コーナーには長い列ができ、カキ汁は1時間ほどで1,500食分がなくなるほどの人気。中学生以下を対象に30秒間でどれだけ多くのカキを皿に積み重ねられるかを競うカキ積み大会や、無料のカキむき体験もあり、子供から大人まで次々に挑戦していました。長柄の二本かぎを使って3分間でカキやホタテの取り放題では、うまくすくい上げるたびに歓声が上がっていました。当日は養殖いかだの見学船も運航され、消費者に養殖への理解を深めてもらうなど、殻付きカキの生産日本一を誇る山田の魅力を広くPRしました。



カキむき体験では、慣れない作業に苦戦していました(丸写真)／初めて見る養殖いかだに興味津々の参加者たち



購入したカキやホタテをその場で焼いて食べられるバーベキューコーナー也大盛況

町長室から

待望久しかった「山田カキまつり」が三月二十日大沢漁協前で初めて開催され、好天にも恵まれて九千人以上のお客さまでにぎわいました。主催者の予想をはるかに上回る来客に、一時目玉商品である殻付きカキが品切れとなり、関係者を慌てさせる場面もあったようですが、無事終了しました。

今シーズンのカキの出荷は、ノロウイルスの風評被害もあり伸びなかったようですが、新たな販路拡大のためにも今回のまつりから得るものは多かったのではないのでしょうか。

これで、本町のイベントは三月のカキまつり、四月・五月のアサリまつり、夏のビーチフェスティバル、オランダ島まつり、九月の秋祭り、十一月の鮭まつりと四季を通じて楽しんでいただけるものとなります。

カキまつり開催に当たりご尽力いただきました関係者の皆さまに感謝申し上げます。ご苦労さまでした。

山田町長 沼崎喜一